

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年3月10日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2770901193
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会
事業所名	グループホームともしび
所在地	高槻市安岡寺町6丁目5-14 (電話) 072-687-0033
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 2月 22日

### 【情報提供票より】(平成 20年 2月 1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤 8人, 非常勤 9人, 常勤換算	12人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造スレート葺 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	約14,000円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(135,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 円/ 月額当たり 40,000円			

#### (4) 利用者の概要 (平成 20年 2月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	74歳	最高	92歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどりヶ丘病院、かい歯科、ともしび苑診療所
---------	-----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営するグループホームで、特養や診療所等を併設しています。『私達は「毎日が敬老の日であり、子供の日である」ことを願い、福祉社会の構築に貢献します』という法人の理念のもと「ゆっくりと ふれあい 生きることの喜びを・・・実感していただくために」「いつでも、どこでも、その人らしく最後まで」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は家族や地域の数多くのボランティアの協力を得て、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。指導者研修を受講した職員が利用者と1対1で行っている学習療法は利用者も喜んで取り組み、気力が充実、活性化し、さらに自立が進むなど、大きな成果をあげています。併設診療所の医師と看護師が必要な医療と看護を提供しています。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について改善が進み、定期的に金銭出納帳に家族のサインをもらい、毎日の食事摂取量を主食・副食別に記録し、水分摂取量の記録もとっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員の意見を取り入れて管理者がまとめたものを回覧し、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の代表、家族、利用者の参加のもとで、3ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動や行事、利用者の生活ぶり等を報告し、地域との交流の深め方やボランティアの受け入れについて話し合っています。民生委員の協力で利用者の毎日の散歩にボランティアが同行する試みがスタートしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。利用者の近況について担当職員が手書きした「お便り便」を写真とともに家族に送付しています。家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成前にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。年に2回、ほとんどの家族が参加する家族会を開催して意見交換をし、同時にアンケート調査も実施しています。また意見箱も設置して、家族の意見が表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	法人が主催する夏祭りは地域の恒例行事で、多くの地域の人達が参加する交流の場となっており、ホームの利用者も参加しています。利用者は地域の文化祭に参加したり、近隣の幼稚園児と交流をしたり、地域のボランティアを受け入れ、人形劇や楽器演奏、刺繍、囲碁、散歩等を楽しんでいます。法人は災害時の避難や休養の場所を提供してほしいという自治会の要望を受け入れています。

## 2. 調 査 報 告 書

(        部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『私達は「毎日が敬老の日であり、子供の日である」ことを願い、福祉社会の構築に貢献します』という法人の理念のもと「ゆっくりと ふれあい 生きることの喜びを・・・実感していただくために」「いつでも どこでも その人らしく 最後まで」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。職員全員が参加する事務所会議、ケアカンファレンス等の毎月の定例会議や毎日の業務を通じて理念を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	法人が主催する夏祭りは地域の恒例行事で、多くの地域の人達が参加する交流の場となっておりホームの利用者も参加しています。利用者は地域の文化祭に参加したり、近隣の幼稚園児と交流をしたり、地域のボランティアを受け入れ、人形劇や楽器演奏、刺繍、囲碁、散歩等を楽しんでいます。法人は災害時の避難や休養の場所を提供してほしいという自治会の要望を受け入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について改善が進んでいます。定期的に金銭出納帳に家族のサインをもらい、毎日の食事摂取量や水分摂取量の記録もとれるようになりました。自己評価は、職員からの意見を取り入れ管理者がまとめたものを回覧し、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の代表、家族、利用者の参加のもとで、3ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動や行事、利用者の生活ぶり等を報告し、地域との交流の深め方やボランティアの受け入れについて話し合っています。民生委員の協力で、利用者の毎日の散歩にボランティアが同行する試みがスタートしています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は高槻市の担当職員とさまざまな案件について相談をしています。市主催の研修会や事業所連絡会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。利用者の近況について担当職員が手書きした「お便り便」を写真とともに家族に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成前にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。年に2回、ほとんどの利用者家族が参加する家族会を開催し、意見交換やアンケート調査を行っています。その他に、意見箱を設置するなど、家族が意見を表出できる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの職員が退職する場合がありますが、職員数が多くベテラン職員の異動が少ないため、利用者への影響は抑えられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修への参加や、伝達研修も兼ねて毎月開催される内部研修にも全員参加し、レベルアップを図っています。認知症、感染症、高齢者虐待等の研修を受講しており、特に認知症介護実践者研修には積極的に参加しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、他ホームとの交流を図っています。毎月、高槻市主催で開催される事業者連絡会や研修会に参加し交流を図っています。近隣の2箇所のグループホームに声かけを行い、現場職員間の交流研修会が実現しており、職員にも好評です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、職員が入所している施設や家庭を訪問したり、利用者や家族にホームに来訪してもらったりしています。約1週間の体験入居もあり、ホーム内で馴染みの関係をつくり、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居し、サービスを受けられるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。利用者とは家事や季節毎の花を育てる園芸を通し、学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の家族や利用者からの聞き取りで、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握ができています。ただ、その後学習療法の時間や毎日の生活を通じて得た利用者の意向や思いの新たな気づきを記録・整理することが望まれます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント情報や利用者の現在の暮らし、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を聞き、利用者や家族の意向・願いを反映した介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。サービス実施状況を毎日記録し、ケース記録を確認しながら、家族の意向、医師や看護師の意見も踏まえ、職員全員参加のケアカンファレンスを行った上でケアプランの見直しを行っています。しかし、モニタリングの方法や利用者毎の担当職員の意見集約については、記録等を工夫することが望まれます。		モニタリングの方法や利用者毎の担当職員の意見集約については、記録等を工夫することが望まれます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設診療所の医師、看護師との連携により必要な医療と看護を受けています。地域のボランティアに各種の楽しみごとを提供してもらっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所から医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前の、かかりつけ医療機関から引き続き医療を受けています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。協力歯科医からも毎月往診があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームでは看取りを行わないことを家族に伝え、家族に了承を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員は言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員の採用時には個人情報の取り扱いについて、法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。入居して間もない利用者の頻回の外出希望にはその都度対応し見守っています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者から届く食材を使って職員が調理をしています。食事準備、下ごしらえ、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で参加し楽しんでいます。味噌汁や時にはおはぎをつくる利用者もいます。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。毎月の誕生日会の出前寿司や年2回の外食会には家族も参加して楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に2回、ゆっくり寛いだ入浴をしています。	○	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。地域のボランティアと一緒に縫い物や囲碁、散歩を楽しみ、人形劇や楽器演奏を鑑賞する等気晴らしをしています。季節毎に鉢植えの花の園芸もしています。指導者研修を受講した職員が利用者と1対1で行う学習療法は利用者も喜んで取り組み、気力が充実して活性化し、さらに自立が進むなど、大きな成果をあげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1回はボランティアと一緒に周辺の散歩をし、月2回はおやつや日用品の買い物に出かけています。季節の花見や外食会、地域の行事にも出かけ楽しんでます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは日中開放されており、外出希望の強い利用者にも職員の見守りで対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として3ヶ月毎に避難訓練を実施しています。非常・災害時のための備蓄についても、非常袋に水と食料を入れて常備し、最低限の対応はできています。今後はさらに備蓄についてはホーム独自の「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成し、備蓄をすることが望まれます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、法人特養の管理栄養士よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口には植木や季節の花、ベンチもあり、訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは広く明るくて、中央には掘り炬燵のある畳スペースがあり、利用者が落ち着ける居場所になっています。季節の花や家具、調度品、雑誌やレクリエーション道具、手作り作品、行事写真等が自然に置かれ、家庭的で落ち着きを感じさせる共用空間になっています。居間からベランダに出ると椅子、テーブルが置かれ、その前は鹿の親子が訪れたり、野鳥が飛び交う雑木林があったり、自然にも恵まれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者は和ダンス、整理ダンス、洋服掛け、収納ケース、椅子、仏壇、家族の写真、時計等使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、落ち着き安心して生活を送れる空間になっています。ただ、一部の居室で持ち込みの家具等がほとんどなく、もの淋しい居室もあるため、今後は利用者や家族と相談しながら、支援していくことが望まれます。		